



おとがわ



ふお～ゆ～

校長室だより

第 49 号

R4.2.14

文責 中西 勉



### 【4年】SDGsへの取組

SDGs (Sustainable Development Goals) <持続可能な開発目標>は、最近様々なメディアを通してよく見聞きするワードですね。これには17の目標が掲げられていますが、今、4年生が、総合的な学習の時間に、そのうちの「安全な水とトイレを世界中に」や「飢餓をゼロに」に関わる取組を進めています。お昼の放送で募金の協力を全校に呼び掛けたり、トイレに節水を促す掲示をしたりして、4年生の自分たちにできることを考え、行動を起こしていることがとても素晴らしいです。今後、子供発のSDGsへの取組の環が、全校、保護者、そして、地域へと広がっていくことに期待しています。

### SUSTAINABLE DEVELOPMENT GOALS



### シリーズ「北京オリンピック」② ～仲間に対する真の優しさ～

シリーズ第2回は、スキージャンプ混合団体を取り上げます。この競技には、高梨沙羅、伊藤有希、小林陵侑、佐藤幸椰の4選手が出場しました。私は、高梨選手と小林選手という絶対的エースがいる日本は、金メダルも夢ではないと大きな期待をしていました。本番の試合を観戦し、テレビの前で釘付けになる私。1回目のジャンプで、高梨選手がいきなり103mの大ジャンプを見せたときは、思わずガッツポーズをしました。しかし、その直後に、耳を疑うようなアナウンスが聞こえてきました。「今、手元に入った情報ですけれども、日本、高梨沙羅が、スーツの規定違反で失格ということになりました」。テレビには、この衝撃的な事実を知って泣き崩れる高梨選手の姿が大きく映し出されていました。

しかし、そんな大ピンチに直面しながらも、日本の4人は諦めてはいませんでした。他の3選手が、失った高梨選手の得点をカバーすべく、それぞれの持てる力を最大限に発揮して大きなジャンプを披露しました。そして、高梨選手も、必死に涙をこらえながら2本目に挑み、98.5mの大きなジャンプを見せました。



そして、チームの仲間は、高梨選手に「よくがんばったね」「いいジャンプだったよ」と声をかけ、4人が心を一つにして、最後までメダル争いを繰り広げました。結果は、3位とわずかの差で4位になりましたが、4人で勝ち取ったこの順位は、大きな価値があると感じました。それと同時に、仲間に対する真の優しさの意味を、4人の姿から改めて学びました。

今朝の月曜集会では、このことを話題にして、子供たちに、友達がとても困っていたり落ち込んでいたりするときに、自分がその子にどんな声を掛け、どう接していくとよいのか、考えてみるように話をしました。友達の気持ちに寄り添い、仲間の頑張りを認め、心から励ましてあげることのできる、そんな心優しい男川っ子が、自分の考えに基づいて、自ら行動に移せることを願っています。